お母ちゃん行けんもん（徳島県海陽町）

昭和二一年（一九四六）の南海地震で二人の子を亡くした母親の体験談です。

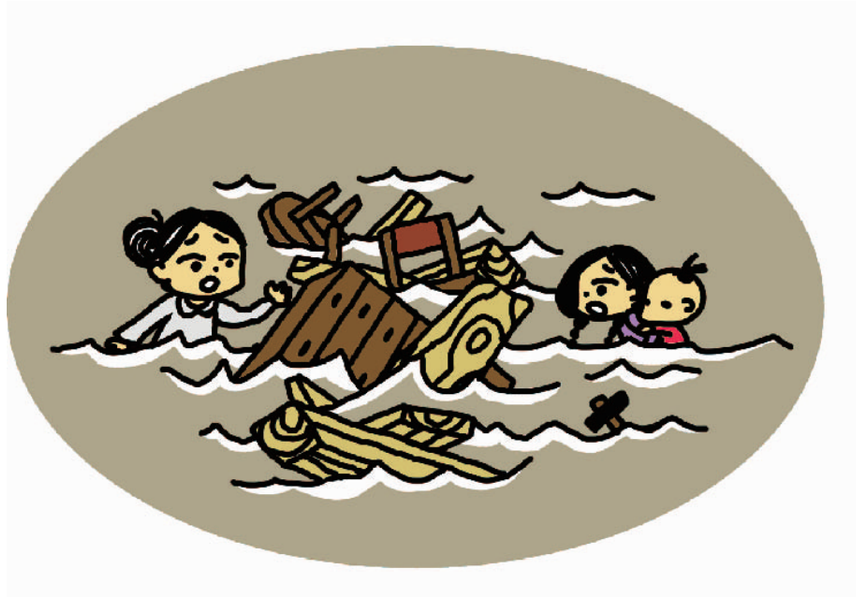
地震が揺ったさかい、「もうやむんかいな」、「家がつぶれるんちゃうかいな」ほんなことばかり考えながら部屋で子供に添え乳させよった。おとうさんが、「井戸の水もようけ有るし、浜へ行ったけど誰っちゃおらんわ。静かなもんじゃわ」と言う。おては（私は）袷（あわせ）の着物を何枚か持ち、「ちょっとでも食べる物持っていたろ」思って、袋に米入れて出て行きかけた。

ほいたところが、近所は、皆逃げてしもておらんのんやもん。ほんで、びっくりしてお隣さんに早よう逃げるよう言うたって出て来たら、うちの前にはまだ水がなかったけんど、駒沢の前へ行ったらもう水がザブザブしとって胸まで上がってきた。それが一番最初の潮やったんや。持っていっきょった物はみんな駒沢の前で捨ててしもた。

長女が四女を負うて行っきょたんやけど、「おかあちゃん行けんもん」言うやろ。行けんはずや、柴から材木から道具からが、じょうさん（たくさん）流れてきとんやもん。暗いし、いろんな物は流れてきよるし、あとへ戻ったることも、どうする事もできん。

ほの後の波に乗って次女と三女は駒沢の屋根に上がって助かった。長女は四女を負うとるし、ねんねこがびしょびしょになっとるから、からだが重とうてようよう上がらんかったんやろ。

潮が干いて町へ出て行くと「ばあやん、おめくの（あなたの家の）子が死んどるで」言うやんけ。長女と四女が西の町で死んどった。下の子はねんねこから抜けて、二人が近くで死んどった。おて（私）が行った時には、もうお寺に運ばれとった。「この子らを熱いお風呂にいれたったら生き返るんちゃうかいな」と思たら入れてやりたくてたまらなんだ。一度に子供を二人も失うてもうた。



昭和三〇年代以前

背　景

昭和21年（1946）12月21日午前４時19分、マグニチュード8.0の南海地震が発生しました。海陽町の浅川湾は典型的なＶ字型湾で、地震発生から十数分後には大津波が来襲し、死者85名、家屋の全壊364戸、流失44戸などの被害をこうむりました。この話は、持ち物を準備していたことから逃げ遅れ、津波が押し寄せる中を逃げた家族の話です。浅川港には「お母ちゃん行けんもん」の石碑が建立され、この時の教訓を後世に伝えています。

アクセス　震災後50年南海道地震津波史碑

- 海陽町浅川出張所前
- 海陽町浅川字川ヨリ東26-4
- 緯度経度　北緯33度37分29秒，東経134度21分46秒